



東京 Tokyo

変わった呼び名が、この街にはある。

「グラウンド銀座」。大企業の運動場が集まるがゆえについた名だ。坪100万円をゆうに超す高級住宅街に、ぽっかり広がる野球場やテニスコート。だが、優雅な福利厚生象徴は、不況のなか、一転してリストラの嵐にさらされた。

駅から徒歩5分の新日鉄運動場はマンションに。その隣、広さ4.3畝を誇る旧日本興業銀行運動場は、公園用地として杉並区に売り払われた。エリート行員が笑いさざめいたプールは今秋、都会の昆虫たちのオアシスになる。(細澤礼輝)

浜田山①

運動場銀座

311



東京 Tokyo

日曜の昼下がりに。ポリ袋を大事そうに抱えた面々が浜田山会館に吸い込まれていく。野球帽をかぶった小学生から老夫婦まで、年格好はバラバラだ。

いったいここで何を？

袋の中身は鉢植え。それも、昆虫などを捕らえて消化してしまう食虫植物だ。

全国の愛好家が月に1度集まり、互いに持ち寄る自慢の一品をめぐる。甘酸っぱい香り。あやしげな色合い。「そのグロテスクな感じがたまらない」。集会を開いて7年半。もとは会場担当者が近所だからと選んだ場所だが「浜田山と言え、今や食虫植物の聖地」。

浜田山②

魅惑の植物

312



東京

Tokyo

幅4.5mの道がくねり、電柱がサイドミラーに迫る。

コミュニティバス「すぎ丸」は住宅街に分け入って進む。向こうから乗用車が近づくと、軒先ぎりぎりに身を寄せて待った。

杉並区が主体となり00年から運行。客は増え、自治体バスでは異例の黒字だ。

狭い道を申し訳なさそうに進む「愛らしさ」が受け、車体をかたどった小型模型「チョロQ」は、2万1千台がすぐに売り切れた。

母親に手を引かれた幼児が懸命に手を振る。運転手の鈴木源一郎さんは照れくさそうに「ちょっとしたヒーローでしょ」。

浜田山③

すぎ丸くん 313



東京

Tokyo

じっとお座りを続けるお利口さんもいれば、不安そうに同じ所をくるくる回っている寂しがりやもいる。

浜田山駅から徒歩10分。ショッピングセンター「オリンピック高井戸店」には駐車場ならぬ「駐犬場」がある。休日の夕方ともなれば、10匹前後がご主人様の

買い物が終わるのを待つ。

杉並区は東京23区内で犬を飼う世帯の割合が最も多い。駐犬場はドッグフードの売り上げが高いことに気づいた店側のアイデアだ。

駐輪場と違い、こちらには日よけのひさしもある。「お客様のお連れ様ですから、気を使っています」

浜田山④

駐犬場にて 314



東京

Tokyo

まきを放り込むたび、薄暗い釜場に汗だくの顔が浮かび上がる。

駅前で48年続く銭湯「浜の湯」。重油バーナー方式が主流となるなか、3代目の霜島尚人さん(46)はまきで沸かす湯を守り続ける。

1日に使うまきは冬場で1ト余。トラックで運び込

まれる廃材を円盤カッターで切りそろえる。一抱えもある柱や梁(はり)と格闘するうちに、ラグビー選手並みの体形になった。

「まきでやってるね。湯が軟らかいもの」。初めてのお客さんに声をかけられた。風呂屋みょうりにつきる瞬間だ。

浜田山⑤

まきの風呂

315



東京

Tokyo

蛇行する川に寄り添うように続く善福寺川緑地。ボール遊びに熱中する子どもたちを1本のシノキが見守っている。樹齢200年を超すが、実は15年前に引越してきた「新住民」だ。

1.5㌔離れた街道わきで、街の移り変わりを見つめてきた。道路拡幅工事で伐採されそうになったが、近くの森泰樹さん(85)の呼びかけで移植が実現。10ト近い大木は命拾いした。

「千年後まで元気に」。森さんの願いはかなうかどうか。春。ごつごつした樹皮の間から若芽が顔をのぞかせた。(細澤礼輝)

来週は平河町です。

浜田山⑥

200歳の木

316